

鳥羽市都市マスタープラン策定委員会における主な意見

開催概要

第1回 令和5年3月23日（木）

- ・都市計画とは
- ・都市マスタープランについて

第2回 令和5年7月7日（木）

- ・課題の検討材料について
- ・都市づくりの主要課題について
- ・都市の将来像について

第3回 令和5年9月15日（金）

- ・全体構想に係る都市づくりの方針について

第4回 令和5年10月20日（金）

- ・住民懇談会について
- ・地域別構想の方向性について

第5回 令和5年11月17日（金）

- ・地域別構想について

議事要旨

【災害対策】

- ・南海トラフ地震が起きた際の物資の搬入拠点となる港がないため、整備するべきではないか。また、観光客の避難する場所が確保されていないと考える。民間の観光施設と連携し、観光客に対する防災対策を講じる必要があると考える。
- ・現行計画は東日本大震災以前に策定されており、防災に関する位置づけが不十分である。中長期的な計画も含め、防災・減災についてしっかりと記載すべきである。
- ・今まで安全だと思っていた市街地が、近年の集中豪雨などで浸水・河川の氾濫が起きている。三重県は、南海トラフ地震による津波被害が危惧されている。今回の都市マスでは、直ちに立地適正化計画を作ることは難しいが、肩代わりとなる位置づけがほしい。
- ・南海トラフ地震が危惧されている四国沿岸部の事例では、事前復興の取り組みが進んでいている。現行都市マスでは、そこまで南海トラフ地震対応を打ち出していなかったが、この10年間で三重県でもハザードマップを充実させた。
- ・景観に配慮しつつ、サインの整備や避難所に向かう階段を見やすくするなどの対策が必要である。

- ・鳥羽市においては、荒廃してきている公園もあるため、統廃合の際は合わせて防災公園についても検討してはどうか。
- ・今後、公園を整備するのであれば、応急仮設住宅の建設候補地としての役割も踏まえ、防災公園として整備することも検討してもいいのではないか。
- ・三重県として防災対策が進んでおり、立地適正化計画を策定する自治体も増えてきている。他の自治体では、津波浸水想定区域においてピロティ形式としているところもあり、こういった事例も踏まえつつ、長い時間かけて安全なまちにしていくことが重要である。
- ・鳥羽市は全域が伊勢志摩国立公園に指定されているため、観光は外せない。観光地に関する連絡して、伊豆市では防災対策に力を入れ、安全な観光地としてPRを行っている。ある統計では、バリアフリー対策されているかで観光地を選んでいるというものがあった。防災はこれに準ずると考える。今後、全国の観光地では防災力強化が進められると想定される。それに乗り遅れないよう、鳥羽においても今のうちに対応しておくべきである。
- ・若い人は安全・安心が確保されていないと定住しない。定住を考えると防災公園などによる災害対策は重要である。
- ・大きな公園が津波に浸水することが課題である。土地が限定されているため難しい面もあるが、防災に関する国の制度も充実してきているため、未来の世代のためにも決断しなくてはならない。鳥羽市以南の自治体においては特に津波対策をしっかりとほしい。
- ・加茂川の洪水対策について、河川改修前に比べればだいぶ改善したとは感じているが、鳥羽警察近くなどはほかに比べ地面が下がっているため、今後も対策はしていく必要があると考えている。

【空家等対策】

- ・学校の跡地利用について気になっている。地域の拠点として使っていく必要があると思う。また、空き家の放置により雑草が多くなっている。それによる景観悪化や獣害の増加も懸念される。高齢者の増加により草刈りができない状況もあるため、空き家管理の対策が必要である。
- ・空き家の有効活用について、空家等対策計画の運用が大事である。計画を策定しても運用していないため効果が出ていない自治体も多いが、効果を出すため、しっかりと計画を運用してほしい。
- ・住民懇談会の意見から、どこの地区も空き家を問題視していることが読み取れる。様々な条件により空き家の取り壊しが難しいことは認識しているが、空き家は、アライグマなどの巣となり獣害にもつながるため早めに対策したいと考えている。

- ・市の玄関口や城下町としての特性を加味して、他地区とは差別化して空き家対策を強化すべきではないか。
- ・主要な課題にある空き家対策については、ずっと前から課題としてあって、進んでいない。人口減少などが進んでおり、企業と行政が一緒になってやっていければと思う。働く側にも優しいまちになるよう、重点課題として認識してもらいたい。

【鳥羽駅周辺】

- ・本市で最も重要な課題は、市の玄関口である鳥羽駅周辺でパールビルが廃ビルのまま放置されていることである。離島に住み船を利用する人や、観光客の一番目につく位置にあり、対策の重要度が高い。観光都市を謳っていながら観光拠点がそのような実態となっているのはいかがなものか。これ以上放置していると、壁の崩落など、安全面でも心配である。
- ・パールビルなどの廃ビルは二次被害を生みかねないため、そういう面でも早急に対策すべきである。
- ・鳥羽駅周辺でも放置されている建物が多いため対策が必要である。建物は使っていかなくてはならない。利活用の見込みのない危険な建物等は早期に除去すべきである。
- ・空き家・空き地が増えてきており、鳥羽駅周辺においてもパールビルなど長年放置されている建物があり観光客からの評判が悪い。放置していると津波の際の二次災害拡大につながるため、早めに除去だけでもすべきである。
- ・空きビルの解消が目的ではなく、観光活性化が目的であると考える。

【生活排水対策】

- ・生活排水処理について、環境都市・定住都市を掲げるなか、河川の水が少ない時には匂いがあるなどを聞いている。重点地区として第1地区の浄化槽の率を上げる等、メリハリをつけることを検討するべきだと思う。
- ・本市では、生活排水処理施設の整備率が極めて低くなっている。このことへの対策を強化すべきではないか。
- ・下水道・浄化槽は都市計画のうえで重要な都市施設である。近隣の自治体も各地で空き地・空き家が出ており、このまま放置すれば、市域全域にわたり、行政でも道路・上下水道の施設整備が手に負えなくなってしまうとの話が出ている。

【景観】

- ・太陽光発電についても重要な課題と認識している。都市計画審議会や観光協会でも多くの意見が出ていた。自然環境等とのバランスが重要である。
- ・安楽島地区は観光客から見える位置であるため、他地域に増して制限を強化したほうが良いと考える。完全な制限は難しいことは承知しているが、風致地区の見直しなどを考えてはどうかと考える。

【道路】

- ・南北の幹線道路はそれなりにあるが、東西が脆弱であり、災害時に南北の幹線道路が寸断されると孤立集落が出てくる。縦横の道路網が必要。南鳥羽とこちらを結ぶ安楽島道のような道路を災害に備えて整備する必要があるのではないかと思う。

【その他】

- ・コミュニティ活動をする場所がなくなってきたため、活動場所の確保について検討してはどうか。
- ・少子化によって小中学校の統廃合が始まっているため、それによる跡地利用等は今後の大きな課題であると考えている。
- ・公民館の統廃合を進める中で、バリアフリー化、インターネット環境の整備等についても検討すべき。
- ・最近では獣害被害がひどく、害獣の個体数が多くなっているため対策が必要である。
- ・都市計画区域内でも空地となっている箇所について、市民農園として貸出を行っている事例は全国でみられる。市民ニーズがあれば、そういった新たな土地利用計画制度を作っていくことも検討課題としてあるかもしれない。
- ・コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を取り入れながら都市計画を進めることが必要である。
- ・「誰もが利用しやすい」について。コロナが収束して外国人が増加し、促進していく必要がある。外国人に対応した多言語のサインが必要なのではないか。
- ・旧鳥羽小学校の文化価値は高く、文化財として保存してほしい。博物館施設以外でも活用は進めたほうが良いと考える。